**令和五年　第二十三期くまもと俳句ポスト**

**第二十三期開函**

**「霏霏Ⅱ」編集事務局　　西口　裕美子　選**

**特選**

奥阿蘇の水美しき若菜粥　　　　　　　　大分県大分市　　　 小野　智輔

**【講評】**

食すれば一年の邪気を祓うとされる若菜粥。凍った土を割って出てくる若草を、寒風に耐えながら摘んで大切な人に送ったという若菜摘を背景に、の節句の風習を美しく詠んだ一句です。白い粥に鮮やかな七草を刻んでさっくりと混ぜる。椀に寄そうと立ちのぼる湯気。作者は、豊かな水のふるさと・奥阿蘇にも確かに訪れた小さな春を感じ取り、万物の<いのち>をいるのです。

**わが輩通り賞**

登り来て清正像やの花　　　　　　　　熊本県熊本市　　 　　坂口　美穂子

**入選**

芳一の居そうな旧居　　　　　　　　熊本県熊本市　　　 柳田　孝裕

出会う人皆あたたかき肥後の国　　　　　　福岡県福岡市　　　 濵武　音杏

あたたかやお茶を所望の御馬下かな　　　　熊本県熊本市　　　　 後藤　博文

**佳作**

マラソンの余韻の街を梅真白　　　 　 　　熊本県熊本市　　　　 磯　あけみ

漱石の好みし庭や花　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　　 野口　美智子

初夏の風旅の途中の田原坂　　　　　　　　宮崎県小林市　　　　 永田　タエ子

路傍の地蔵に落花風のまま　　　　　　　　熊本県熊本市 鶴田　信吾

漱石も踏みしとび石春の風　　　　　　　　熊本県菊池市　　　　 日野　智子

古戦場花の影行く猫一匹　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　　 宇野木　邦子

雨空に覗く光や肥後椿　　　　　　　　　　大阪府泉南市　　　　 寺本　那由他

山茶花や忘れたはずのラブレター　　　　　熊本県合志市　　　　 大木　歌子

夏雲に若者の声田原坂　　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　　 井手　裕之

ぽっかりと鼻ぐり井手の蛍かな　　　　　　熊本県熊本市　　　　 佐藤　誠吾

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 投句総数　　二百十六句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市内　　　　百十四句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市外　　　　百二句

開函日　令和五年六月三十日